

コミュニティ ふっ

私と人とまちの間に

2018.DEC
119号 12

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団

もくじ CONTENTS

FEATURE

笑顔をつくる、 あしたをつくる。

- 2 笑顔と希望とパン屋さん。
- 4 12枚のカレンダー
- 6 フツーに暮らすための魔法の道具、自助具。
- 7 まち暦 
- 8 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 9 より道こ道 「渋川」
- 10 事業団からのお知らせ
- 11 見つけてスッキリ! / 草津の匠
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第31回 いる、いる!
ボイス

なんとかしたい

障がいや高齢のために抱える生活上の不便や負担を軽くしたい。工夫とアイデアで自助具をつくるα工房。困っている人に寄り添いコツコツ30年。「なんとかしたい」の気持ちが明日を笑顔にします。(6ページ)

正月のお雑煮には神様にお供えしたものを分けていただく意味があるとか。丸餅・角餅・みそ汁・すまし汁……。具材も味も地方によってさまざま。誰かと話してみると思った以上に盛り上がる雑煮トーク。あなたのお雑煮は？

FEATURE

笑顔と希望とパン屋さん。 ベーカリー&カフェわかたけ

(社福)若竹会 ワークステーションわかたけ 所長 河村まゆみさん(53歳)

レンガ壁にオレンジの屋根、緑のひさしがアクセントのおしゃれな外観。明るく清潔感ある店内は、厨房と売り場だけでなく、食事スペースやキッズスペースまで心地よい空間が伸びやかに広がります。そして店内に漂うパンとコーヒーの香り。ここは川原町「ベーカリー&カフェわかたけ」。一般就労を目ざす障がいのある方が働く、まちのパン屋さんです。



いよいよ今年も押し迫ってきましたね。子どもたちにとっては、クリスマス、大晦日、お正月…と短い冬休みの中にワクワクする行事がギュッと詰まっています。せわしくも、どこかウキウキするのは大人だって同じです。そこで、「草津の皆さんの年末年始」を探しに出かけたところ、誰かの笑顔をつくるために頑張っている人たちに出会いました。「笑う門には福きたる」といきましょう。

パン屋の実力

店を運営するのは社会福祉法人若竹会の障がい福祉事業所「ワークステーションわかたけ」。障がいのある人や養護学校を卒業した生徒などが就職するた

めに必要な訓練ができるお店です。でも、「障がいのパン屋」とは言われたくない。「パンの味」も「お店の雰囲気」も「店員の接客」も街中のベーカリーに負けたくないと思い、障がい者施設という看板は掲げていません。

パン工房のスタッフは主婦ばかり、良い意味で皆が素人。「自分の子どもに食べさせたい！お客様に美味しいパンを届けたい」と、お母さん目線の安心で安全なパンづくりがモットーだとか。「必要のない香料や保存料などは使わず、できるだけ良質の小麦粉とバターを使い、今朝焼いたパンを今日販売することにごたわります。だからでしょうか、パン工房のスタッフはこのパンが大好き。一番のお客様でもあるんです」と河村さん。「食パンを週2回買いに来られる近所のおばあちゃん



「このパンがいちばん好き」と言ってくれます。なんともこれもこれが一番うれしい声です」

社会を疑似体験

河村さんは言います。「極端な言い方かもしれませんが、障がい者さんは家庭で保護者から、養護学校で先生から、守られて成長してきました。でも社会に出ると、家庭や学校のように守ってくれる人は少ないかもしれません。それでも様々な苦難を乗り越えていかなければなら





ないんです。障がい者にとつて
 ここは、一般就労だけでなく、社
 会の中で生きるという疑似体
 験の場でもあるんです」
 そんな思いから、ここではお
 給料を手渡しするとか。「ご家
 族は心配されるのですが、預金
 通帳やキャッシュカードも作っ
 てもらい、できるだけ本人に管
 理してもらおうようお願いしてい

ます。障がいをもちながら社会
 に出て、自分にできないことや
 困ったことにぶつかつた時、周り
 の人に『助けてほしい』『どうす
 ればいいのか?』を伝え、自分な
 りに工夫したり、時には他人の
 力も借りて乗り越えていく、た
 くましさ、を身につけてほしい
 と考えています」

運と縁とタイミング

「障がいがあるからといって
 何もできないわけではありませ
 ん。中には何でもできる応用性
 に富んだ人だっています。障が
 い者というのは、その障がいの
 ためにできない部分があるだけ
 誰だつて、できないことを、で
 きるように、求められるのはし
 んどいもの。だからここでは、で
 きることをより一層伸ばせるよ
 うな支援をしています」

「ベーカリー&カフェわかた
 け」は一般就労できるよう支援
 するところです。そのためここ
 で社会に出るための訓練ができ
 るのは2年間だけだとか。ここ
 でずっと働くことはできないん
 ですね。「でもこの、期限があ
 るから、本人も支援側の私たち
 も緊張感をもって頑張れるんだ
 と思っています。就職は、運と縁
 とタイミング。ご縁のある会社
 が運よく見つかるまでしっかりと、
 じつくりと準備する。そして
 見つかったらアクセル全開です」。

就職が決まれば、その子の得
 意なこと、苦手なこと、できる
 こと、できないことを就職先に
 きちんと伝え、企業からの相談
 にも丁寧に対応しているとか。

「職場にすぐに馴染む人もい
 れば、なかなか馴染めない人もい
 ます。わかたけの卒業生が困つ
 たときや、企業側が障がい者雇

用で悩んだときに、私やこの
 職員の顔を思い浮かべてくれる
 よう、日々、接しています」

「ベーカリー&カフェわかた
 け」のモットーは笑顔だとか。
 障がい者自身が楽しみ、家族
 やお客さん、そして社会の誰
 にも笑顔で接することがで
 きるよう、職員みんなが心掛
 けています。

そろそろ、クリスマス。
 今年はどんなパンが店に並
 ぶのか楽しみです。今日も、美
 味しいパンと、笑顔と、希
 望、でいっぱいのパン屋さんで
 す。

パンは季節に合わせて変え
 ていきます。パンが大好きな
 工房のスタッフが各々アイデ
 アを出し合い、競い合つて新
 商品を選びます。



河村まゆみさん

ベーカリー&カフェわかたけ
 川原町宮ノ前297-3
 9:00~17:00
 年末年始のみ休み



FEATURE

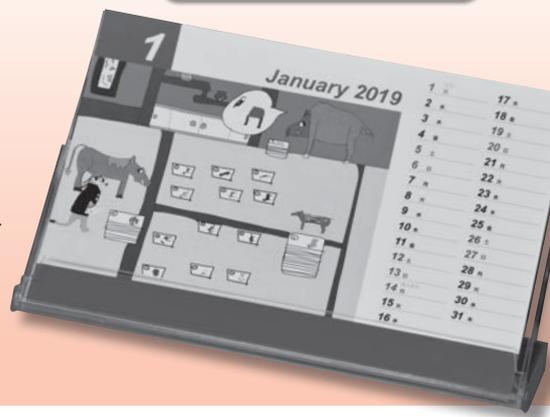
12枚のカレンダー

NPO法人アイ・コラボレーション 吉田真太郎さん(36歳)

年の瀬や 一枚となる カレンダー (木野本加寿江「火星」より)

なにかと気ぜわしい年末。行く年を惜しみつつ、新しいカレンダーや手帳を用意すると、気持ちを引き締まるものです。どうか来る年が良い一年となりますように。

草津宿本陣のすぐ近く、街道筋に面した一角に、カレンダーや年賀状印刷の注文で大わらわの事務所があります。NPO法人アイ・コラボレーション。障がい者がパソコンの技術を使い、ホームページの作成や印刷物の発注を受ける障害者就労支援B型*の事業所です。



今できることを楽しむ

朝9時すぎ。車イスで来る人、送迎されてくる人、と次々と出勤してきます。郊外の広い所ではなく、人通りの多い商店街にあえて事務所を構えているのには理由があります。駅から近いこと、そして障がい者もまちの構成員であることを、周りの人だけでなく本人たちにも意識してもらいためだとか。

この草津事務所では障がい者・健常者を含め、約35名が働きます。吉田さんはDTP印刷部門のリーダーを務めます。

実は吉田さん、生まれながらにして徐々に身体の自由が奪われていく「筋ジストロフィー」という難病。10年前から車イス生活となりました。それでも動くことが大好き、何事にもチャレンジする性格で、様々な障がい者スポーツにも挑戦しながら、一人暮らしで自立した生活を送っています。

「幸い、ゆつくりと症状が進行する型だったので、今できることを見つけては精いっぱい楽しんでいきます。やがて、今できていることもできなくなってしまう。その時はまた、できること

を見つけて楽しみます」

吉田さんに脱帽です。

筋金入りの素人だった

別の作業所からここに移ってきたのは6年前。「筋金入りの素人だった」というデザインの勉強も、持ち前の前向き思考でどんどん吸収してきました。「この仕事を始めてからは電車の吊広告でも街角のポスターでも、目に映るデザインの一つひとつが気になるようになりました。今ではデザインって本当に楽しいなって思います」

そんな吉田さんも今やメンバーを束ねる役割。事務所の障がい者一人ひとりに、今の能力にあった仕事を割り振ることが仕事の中心となりました。障がいのタイプは様々で、その人の能力やペースだけでなく、その日の状態や調子をみて、「コミュニケーションを取りながら仕事を進めてもらいます」。

大変な仕事ですが、作業所同士のコンペで通過したとき、私が言わなくても自分から準備して仕事を始めているとき、以前よりデザイン力がアップしたときなど、メンバーの成長を感



吉田真太郎さん



NPO法人アイ・コラボレーション
草津2丁目5-16
9:30~18:00
土・日・祝日・お盆・年末年始は休み



DTP…パソコンを使って作成する印刷物。

「最近のやりがいです。最近ではチラシや広報紙の作成などが中心です。『私も営業をしているので、もっと宣伝してこの子たちが成長できる仕事をとってこないといけないと感じています』」

リーダー、そして黒子

とは言うものの、良い時はかりじゃないのがリーダーの辛いところ。「DTPは納期と質が命です。みんながデザインの案が浮かばない時や納期が間に合いません。もし、べ切に間に合わない場合は、たまに、こちらでデザインを直しておき、後から『少し直しておいたよ』ってさりげなく伝えたりして。黒子に徹することもリーダーの大切な役割だと思っています」

12枚のカレンダー

年末が近づくと、受注カレンダーだけでなく、アイ・コラボレーションとしてもカレンダーを作成します。お得意先への営業グッズですが、メンバーのデザイン力を高める目的もあるので、テーマを課してみんなに作品を一点ずつ創ってもらいます。とはいえ一年は12か月しかありません。つまり来年のカレンダーに採用できるのは12人と、狭き門です。

「それでもみんな年末の忙しい合間を縫って、お世話になったお客さんの顔を思い浮かべながら一生懸命に創ってくれるのが嬉しい。残念ながら選ばれない子もいるので気も遣いますが、そんな悔しさも自分の中で消化して、次への糧にしてくれています。一人ひとり視点もタッチも違うけど、一つのカレンダーとなったときにむしろ良い味になっています」

12枚のカレンダー。障がいのために不自由なこともあるけれど、パソコンという道具をちよつと借りること、近くに何気なく寄り添ってくれる人がいることで、こんなにも「自分らしさ」を表現できることを知りました。来年のカレンダー、もう用意しましたか。

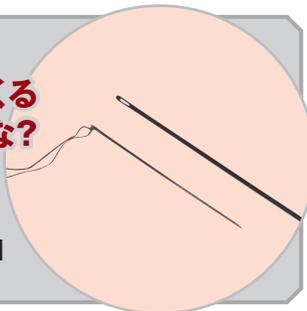
利用者は似顔絵の練習もします。DTPの勉強には欠かせません。吉田さんに似てるかな？



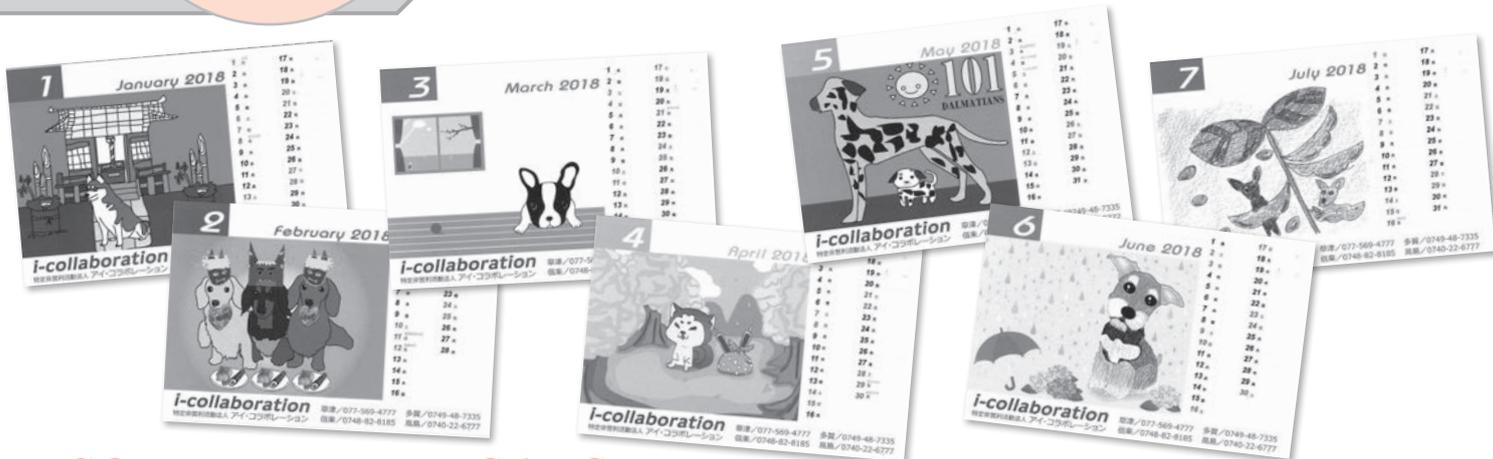
***障害者就労支援B型**

障害者総合支援法(旧 障害者自立支援法)に基づく就労継続支援のための施設。一般企業への就職が困難な障がいをお持ちの方に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じて、その知識と能力の向上に必要な訓練などの障がい福祉サービスを供与することを目的としています。B型は雇用契約を結ばず、利用者が作業分のお金を工賃としてもらい、比較的自由に働ける"非雇用型"です。「障がい者就労サポートガイド」より抜粋

**匠の技
何をつくる
道具かな？**



答えはP11



フツーに暮らすための魔法の道具、自助具。

アルファ
α工房「くさつ」 扇寛さん(77歳)

例えば身の回りのこと。あなたは昨日、趣味のガーデニングを楽しみました。今日は身だしなみを整えて出かけました。明日も食事を楽しむでしょう。どれもあなたにとってはフツーの日常かもしれません。一人ひとりフツーの捉え方は違いますが、中には病気や事故、加齢などで自分が思い描く日常の暮らしに不便や難儀さを感じる人もいます。それは明日のあなたや私かもしれません。

「誰もが日常をフツーに過ごしてもらいたい」と、自助具づくりをする団体、α工房をご紹介します。



フツーにするための道具

自助具。それは何らかの事情で日常生活を送ることが難しくなってしまった人のために製作された道具です。時間がなかったり、人に助けてもらっていた身の回り動作を、できるだけ楽に、自分自身で生活ができるよう、工夫や改良が加えられた「自分の生活を助けてくれる道具」です。

そんな自助具を利用者の事情に合わせてオーダーメイドするのがα工房「くさつ」です。きっかけは保健所が実施した障がい者支援ボランティア講座。講座終了後に参加メンバーで団体を立ち上げました。約30年前のことです。多い時には年間20種類もの道具を手がけた年もあります。

楽しむことをあきらめない

なにせオーダーメイド。利用者一人ひとりの不自由な部位や具合、思い、事情だつてちがうので、丁寧に話を聞きながら製作していきます。ある時、片腕を失った40代の女性から依頼を受けました。その女性の楽しみはガーデニング。でも片手の彼女

は虫除けのアームカバーをつけられませんが。あなたなら、どんな方法を考えますか。

また、ある時は右手

の指が不自由な老人会長さんからの依頼で

「老人会の写真を撮りたいが私は右手が動かない。左利きのデジタルカメラはどこにも売っていない。左手でシャッター

を押せないものか」。なかなかの難題です。α工房では1000円ショップで購入した化粧用バ

サミを加工して、見事左手でシャッターを押せる道具を作りました。



一人一品

こうして、α工房は一人ひとりの「困りごと」を、丹念に解決していくのです。それはあたかも魔法のよう。片手でも靴下を履

いたり脱いだりできます。リウマチを患った料理好きの女性が

落としたりした鍋蓋を、屈まなくても拾えます。手の力が弱くて箸を

上手く扱えない人も今や自宅で、旅行先で、Mソ箸を使って食

事を楽しみます。「一人一品」です。

はじめてのボランティア

代表の扇さんは元々、民間企業で研究開発の仕事に長く就いていました。定年を迎え「何か社会に恩返ししたい」と、当時住んでいたまち

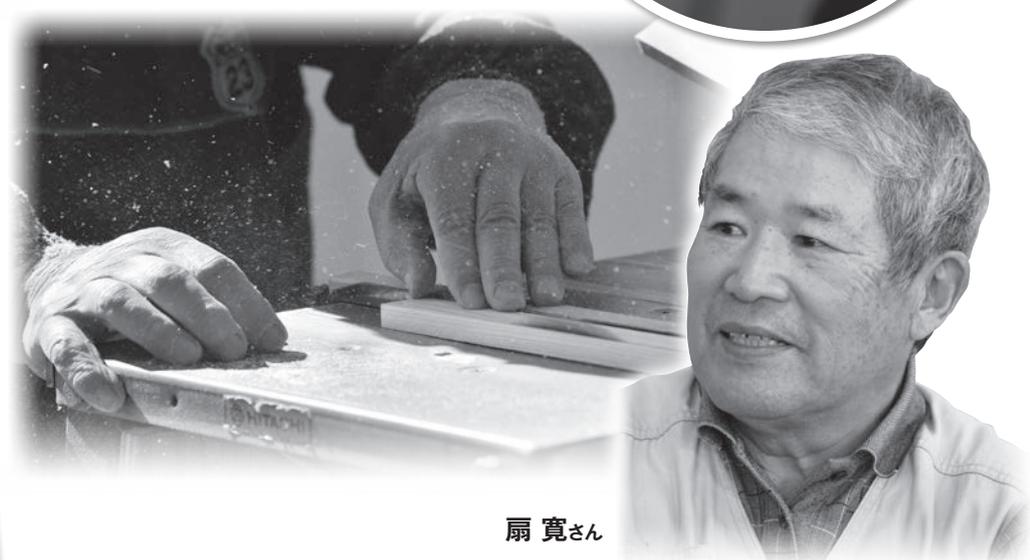
のボランティアセンターに登録

そこで、同じくボランティアを

していた大工さんと一緒に集会所のトイレを和式から洋式に変

えたり、玄関にスロープをつけるなどの活動をしたのが、今に活かされているとか。

「最初の活動は、ある作業所さんからの依頼でした。障がい者さんがジャガイモの皮をむく



扇寛さん

作業場ですが、テントだけの簡易なもので冬は手もかじかむ気の毒な環境でした。そこで大工さんと一緒に作業小屋を建てました。電気や水道を引くのは私の担当。作業所の職員さんやそこで働く障がい者さんに喜んでもらったのが本当に嬉しくて」

広がる自助具

平成12年に介護保険制度が施行され、数年後には自助具も1割負担で買えるようになると市販のものが出回るようになりました。片手爪切り、ソックスエイド、ばね箸などの汎用性の高い自助具が、大量生産され徐々に依頼件数が減り始めます。

逆に時間の余裕ができたことから、認知症予防にと、ビーズを使ったボードゲームを考案したところ、高齢者の間に口コミで広がり、10年間でなんと3000台となるヒット商品に。一時は製作が追いつかない時期もありました。商品と言っても、ボランティア団体



取材の日、α工房では片手でポットからお湯を注いでも跳ね返りがないよう、湯飲みやカップを置くための小さな台を作っていました。名づけて「プチテーブル」。カップも置くことができる優れたものです。ケガをしないよう、無粋な音がしないよう、そして飽きがこないよう、おしゃれで美しい布地が貼ってあります。フツーに使うためのα工房ならではの心配りでしょうか。

扇さんはある日、小5の女の子から「福祉ってなあに？」と聞かれたことがあったそうです。それからというもの「福祉」は扇さんの命題となりました。扇さんは本で調べたり、実際の活動を通じて「福祉」について考えるようになりました。ボランティアとは、福祉とは。

言葉で答えるのは難しいですが、α工房の活動にその解が垣間見えるような気がします。

なので、もらうのはほぼ材料費と必要経費だけ。「人は助け合わないと生きていけません。地縁・血縁・仕事でできた職縁など社会には色々な人のつながりがありますが、近年こういつたつながりが薄れてきていると思います。好きなこ

とで集まって活動する『好縁』も人のつながり、ボランティアの原点だと思っています。『ありがとう』と感謝してもらえるのが何にも代えがたい喜びです。私たちが自身が好きなきことをさせてもらっているのに、むしろ私たちが感謝したいですね」



ふれあいタウンのまち暦 冬 ~とある町会長さんの「いいね、町内会!」~

年が明けると、この町内会も定期的な活動だけを残して、行事らしい行事はありません。1月には顔合わせの町内新年会と松の内が明けたら集会所のしめ縄を神社に持って行くくらい。

2月に入ると、いよいよ今年度の締め準備です。各部会の事業と会計の報告会をします。部会ごとに監査の役員が聞き取りやレシートのチェックなどをします。わが町内は10部会あるので、30分ずつ確認しても3日かかります。会計や監査だけでなく、交渉・文書作成・広報・園芸、ときには集会所などの施設や公園の管理など町内会の活動は本当に幅が広い。町の中で現役のころの知識や経験を活かしてもらえると本当に助かります。

3月末には事業も会計もすべて締めて監査の役員が印鑑を押して終了。急いで総会資料の作成に取りかかります。毎年4月の第2日曜に町内会総会を開くように決めています。だからそれまでに各組では次の組長さんを選出しておいてもらいます。輪番制もあれば、話し合いのところもありますが、町内会長はその組の選出ルールに口を出しません。

他の町内会でもよく聞きますが、役の担い手が出てこないというのが悩みのタネ。誰か良い解決策があれば教えてほしい、というのがホンネです。

ふれあいタウン「まち暦 冬」

- 1月** 町内会新年会
- 2月** 各部会事業・会計報告の打合せ
- 3月** 子ども会歓送迎会
総会資料準備
- 他** 広報の配布・市役所への報告書類・保険の更新・下校パトロール・救急救命訓練・新旧組長引き継ぎ会 など

*このコーナーは市内のとある町内会長さんの話をもとに独自に編集しています。登場する町内や催しの名などは実際のものとは違います。また、すべての町内会・自治会にこの内容があてはまるものではありません。



くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。
どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り返される
今ドキご近所のちょっとこなれた毎日。
楽しくも少し考えてしまう。
もしかして…これって、みんなの問題かも。



火の用心

空気が乾燥する冬。火の元だけにご注意を。

なんともユニークなお話ですね。個人的には、これもアリだと思います。新たなことを始めるのは少ししんどいですが、今、普通に行っていることにちょっとした工夫や新しい視点を加えるだけで、これまで以上の効果や思わぬ良い影響が生まれたりするのも、まちづくりの醍醐味かも知れません。

そのためには町会長が聞いたように、「これまではどうだったのか」と反省や成果をみんなで共有することから始めるのはどうでしょう。メンバーが替わった場合なら、昨年の担当者から様子を聞いたり、引継書を書いてもらうのもいいですね。共有できたら、次にみんなでアイデアを出し合ってみる。どんな些細な発想でも、きっと皆さんの知恵や経験が集まれば、そのアイデアは磨かれていきます。そして大切なのは、多少の失敗は恐れず、まずはやってみること。やってみなければ次の一歩も見えてきません。やってみて、また反省点を出し合い、次回につなげていく。

このサイクルって、どこかで聞いたことあるような？って思ったあなた、正解です。そう、計画～実行～評価～改善の4つの段階を循環的に繰り返しながら仕事や業務の改善・効率化を図っていく「PDCAサイクル」です。企業活動のイメージが強いですが、まちの活動にも十分に活かせるやりかたです。また、役員さんや実践者ばかりが苦勞してやる必要もありません。計画を立てる時に若い世代に入ってもらったり、実行は子どもたちと一緒に楽しんだり、段階ごとに関わってもらえる人が増えれば、関心を持ってくれる人も増えるでしょう。「評価」や「改善」なんて難しそうな言葉が並んでますが、難しく考えることはありません。楽しみながらやってみましょう。自分たちのまちのことなんだから。

これってやっぱり、みんなの問題。



さく・com-com / え・まんじゅう

読売新聞

街の安心、安全、
教育、環境を
応援していきます。

Y 草津五店会 TEL 077-568-2146

スマイ印刷は、
自然環境を守る地球に優しい
製品づくり「エコ印刷」に
取り組んでいます。

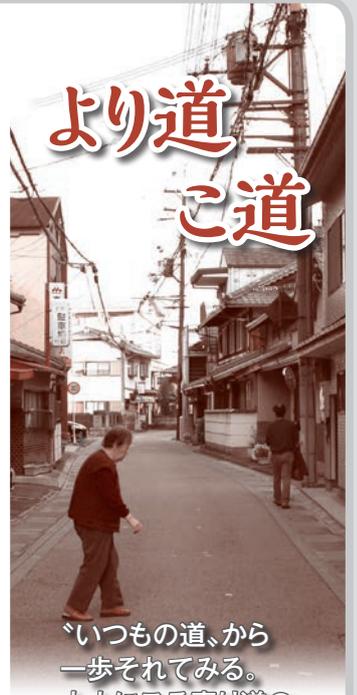
SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com

本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045



より道 こ道



いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。

第15回・渋川・草津駅から中山道へ

石田はま子

JR草津駅・東口デッキの「街道ふれあい広場」には、道標のレプリカ、一里塚の目印とされた黒松、市の木と花であるキンモクセイ、アオバナの陶板など、草津がの玄関口らしい様々な趣向が凝らされています。今回は草津駅のあるここ渋川一丁目から昔の面影を求め、中山道をたどってみましょう。

駅から国道に向かい「大路」の

信号を左折、そびえるのは「草津タワー」マンション。1階「さろん七助屋」の前には庭石や手水鉢、通路にはかつての建物「七助屋」の瓦が敷かれています。店内には当時の写真や家紋入りの提灯箱もあり、江戸時代から続く由緒がうかがわれます。

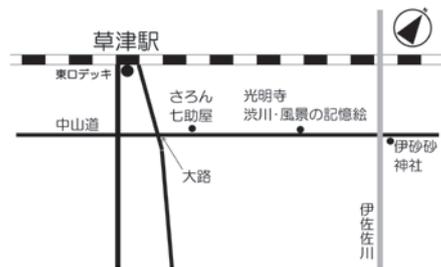
この中山道、以前は道路の中央が盛り上がる「かまぼこ型」だったとか。今は舗装され、電柱も民家の敷地内に納まって広くなっています。地元の方たちの「まちづくり」への意気込みを感じました。

光明寺前の「渋川・風景の記憶絵」には昭和30年代の暮らしが描かれ、当時の様子を知ることができます。道沿いには商店

が多く並び、生活に必要なものは何でもそろったとか。その名残を畳屋、布団屋、提灯屋などの店に見ることができます。マンションや新しい家といった「現在」の合間に、タイムスリップしたように旧家の瓦屋根や庭がのぞきます。歩を先に進めると伊佐佐川のせせらぎ、その横には氏神「伊砂砂神社」があります。

境内には「草津市渋川合併記念碑」や二宮金次郎の石像があり、五柱の神様が祀られる本殿は室町時代の重要文化財です。そのうちの「石長比売」は県内でも珍しい健康長寿の神様です。

毎年9月13日の燈明祭では、今も古式「花踊り」が奉納されます。室町時代に雨乞いの御礼踊りとして始まった風流踊りで、県の無形民俗文化財にも指定されています。音頭取・太鼓打・シンボウチ踊り手が花笠をつけ、軍配や団扇を持ち華やかな衣装を身にまとって夏の終りを彩ります。



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津
くらし何でも相談
TEL:077-564-5512

住所：草津市大路1丁目1-1 エルティ932 4F 406

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522



株式会社 三井田商事

JR南草津駅前に2012年に移転しましておかげ様で6年が経過しました。この度、4月1日付で南草津2丁目に新社屋を構えることができました。これも一重に地域の皆様に支えられて事業展開できた結果だと考えております。

今後とも日々精進して皆様から愛される企業として努めて参ります。弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、水の宅配事業も展開しております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津2丁目7-16
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

集まれ! まちセンキッズ2019



▲ 昨年の様子

市立まちづくりセンターで活動する「子ども向けサークル」が 合同でお届けする体験会!

幼児から小学生まで、保護者の方も一緒に楽しく遊んでくださいね♪

日本舞踊体験・プログラミング体験・英語であそぼう(パズル他)など



3月21日(木・祝) 13:30~15:30
市立まちづくりセンター(ふらっとサロン)

- 対象 小学生以下の子どもと保護者
- 参加費 無料
- 持ち物 特にありません

出入り
自由

ロクハ スポーツボイス学園

「声」から心も体も健康に
腹式呼吸と手足の運動で
腹筋を鍛えます。

声が出にくい、人前での発表が苦手な人、
歌が上手になりたい…こんな人におすすめです。



無料

長寿の郷ロクハ荘 大広間

1月 15(火)・22(火)・29(火)

2月 4(月)・12(火)・19(火)・26(火)

3月 4(月)・12(火)・19(火)

すべて 13:45~15:00

単発参加もOK

講師 **岡本 真氏**
音楽健康指導士



問合せ

長寿の郷ロクハ荘

☎ 563-5021 ☎ 567-4269

まちづくりセンター 16周年イベント

無料

市立まちづくりセンター登録のボランティア団体による交流イベントです。子どもから大人まで楽しめる体験コーナーやにぎやかなステージ発表もあります。

健康体操・子どもたちによる英語の歌・ポップダンスの発表など、どなたでも参加OK!

草津の市民活動を体感する一日を満喫してください。

3月2日(土) 10:00~15:00

市立まちづくりセンター
(西大路町9-6)



問合せ ☎ 562-9240 ☎ 562-9340



▲ 昨年の様子

前回の答え たくさんのご応募ありがとうございました。



※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。
ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。

● 1回1枠(名刺サイズ)5,000円

コミュニティくさつ

● 約59,500部発行(年4回)

● 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

● 申込み・問合せ ● (公財)草津市コミュニティ事業団 ☎ 565-0477

見つけ ズキリ!



さあ、新年。気持ちも新たに神社やお寺に初詣という人も多いのでは。京都や奈良など大きな神社にお参りするもよし、家族と一緒に地元の神社で感謝と幸せを願うもよし。

下のイラストには上のイラストとちがう部分が5か所あります。ちがう部分を答えてね。

応募方法

ハガキに①答え②氏名・年齢・郵便番号・住所・電話番号

③今号の感想を添えて下記まで。

FAX、メールでのご応募もお待ちしております。

〆切 **1月4日(金)** 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号

(公財)草津市コミュニティ事業団

「コミュニティくさつ12月号」係

☑ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 562-9340

プレゼント

応募いただいた中から今回ご紹介した「ベーカリー&カフェわかたけ」(P2)のご利用券(1000円相当)、またはアイ・コラボレーション(P4)がつくる2019年卓上カレンダーをそれぞれ5名様にプレゼント。



イメージ▲



イラスト：大村恵(編集ボランティア)

草津の匠

第3回

布団職人
(北川ふとん店)

北川 千鶴子さん 渋川町・96歳

「昔は女性の夏の手仕事だった」と、その女性は教えてくれました。
 疲れた体に休息と安らぎを与えてくれる布団
 丁寧に綿を入れては布団に命を吹き込む作業
 時代は変わり、機械仕事主流になっても、その女性は今日も綿を入れます。
 使う人の好みを察し、一枚の綿を継ぎ足し、継ぎ足し、加減する。
 その人の安らぎと健やかな眠りを思いながら。
 気がつけば、「この道60年以上」という歳月が流れていました。
 しんどくなって今は少ししかできひんけど…
 言葉とは裏腹に、無駄のない鮮やかな技が光り、魔法のように、生地と綿が布団になっていく。
 96歳、これからです。

P5の写真の答え 「ふとん針」。

中綿が動かないよう、中心を決めた位置に糸で綴じます。



熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第31回

いる、いる、いる！

熊谷栄三郎



草津はスーパーマーケットが多い。それが年寄りには有り難い。店内にいれば、退屈しないのだ。いろいろ面白いことがある。

たとえば先日。菓子売り場をうろろろしていたら、お母さんとやつてきた幼稚園児ほどの男の子が、棚の一角を指さして叫んだ。

「お母さん、いつものお菓子、ここにいるよ、いるいる！」

お菓子のことを「ある」ではなく「いる」と表現しているのが面白くて二人に近寄ってみた。男の子が指さしているのは、チョコレートをまぶしたような菓子だった。「はいはい、今日も買って帰りますよ」とお母さん。子どもは品物を抱えて、けんけんしながらレジの方へ走って行った。

あの子はなぜ、売り場に並んでいるその菓子を「いる」と表現したのだろう。私もそれを「袋買うこと」にしつつ、考えた。

お母さんだって、対象が鉛筆や本のことなら「ある」という表現が、また人や犬のことなら「いる」

という表現が正しいということ、日頃から教えているに違いない。その子はそれを知っているお、そのお菓子を「いる、いる」と言ったように思えた。

男の子はたぶん、そのお菓子が大好きなのだ。ただのお菓子ではなく家の猫や犬みたいに親しく思っているのだろう。だから「ある」ではなくて、「いる」と言った。お母さんも事情が分かっているから、そんな言葉づかいを注意しなかったのでは。私には男の子の言葉が名言のようにも思えてきた。

そういえば子どもは意外な名言をいくつもあるような気がする。この前も、知人に聞いた。小学生のお孫さんが言ったのだ。「爺ちゃんって、大人の過ぎた人？」。子どもが過ぎて大人に、大人が過ぎて爺ちゃんになる、と解釈しているらしい。ま、正解か。私は手帳に子どもの名言を集めている。さつき、めくってみよう。

やつぱりそこには楽しい名言たちが、いるよ、いる、いる。

「コミュニティくさつ」は、 みんなでつくる まちづくり情報誌です！

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえる市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議（3か月に1回）で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身のサークルや団体メンバーに本誌を配布してくれる人



● **申込み・問合せ**
(公財)草津市コミュニティ事業団
コミュニティくさつ編集部(まちづくり振興課内)

読者の声

たくさんのご意見
ありがとうございます。

9/15号「まちなか先生、見つけ。」に寄せられた感想から

- 食堂やたこ焼きなど食を通してコミュニティが広がるすばらしさを認識した。私もコミュニティを広げていきたい。
- たこ焼き10円、こんな温かい人の子どもの思いやる気持ちがきっと子どもを育て、明るいまちづくり、ご近所力UPにつながるのだと思います。
- 「げんこつおじさん」すごいと思った。私も子どもがいるので、ぜひ会いに行かせたいと思う。
- 「げんこつおじさんのたこ焼き」げんこつで払う記事に感動した。とても心が温くなった。
- げんこつおじさんの日本一小さなたこのたこ焼きが食べたい。私の地域にも見守ってくれるおじちゃん・おばちゃんがいる。いつもありがとう。
- 緑のはらぺっこ食堂や草津05倶楽部。若い人たちが子どもたちのためにいろいろ考えて行っていることに感動した。
- 「より道ご道」を毎号楽しみにしている。草津の歴史をもっと知りたい。
- 熊谷栄三郎さんの「徒然草津」いつもホッとする。今号の「大夕焼け」は本当に面白かった。

ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

私のお正月



ロクハ公園



クレアホール



まちセン



ロクハ荘



アマカホール

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費縮減などで得る独自の収益金のほか草津市からの補助、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

